

水虫の話

梅雨時から夏にかけて、足は蒸れてムズがゆく水虫の騒ぎ出す季節となりました。水虫の患者数は全国で2千万人以上、その半数は女性といわれています。痛くも痒くもない場合が多く、知らない間に爪や手、股間などへ広がっていく場合もあります。放っておくと当然菌をまき散らすことになり、他の人へうつしてしまうことになるでしょう。

一般に水虫といわれる病気は、白癬菌(糸状菌)というカビの菌の一種による感染症です。類似の症状を呈するものにカンジダ菌(分芽胞菌)があり正しく診断されないと、カビを治す薬の中には白癬菌しか効かないものもあるので注意が必要です。

汗がつまってできる湿疹を水虫と思い込み、市販の薬で悪化させてしまう人もよく見られます。爪の水虫では厚硬爪甲、爪甲鉤湾症、爪の乾癬、苔癬といった一見区別がつきにくいものも少なくないので水虫を疑ったら自己判断せず、皮膚科専門医を受診することが大切です。

元来、水虫は弱い菌ですが免疫力が落ちている時や、皮膚や爪にわずかでも傷があると容易に繰り返し感染します。手足の保護膜まで取れてしまうほど洗いすぎたり、症状に気が付きにくい爪のオシャレもほどほどにした方がいいでしょう。

病院に行く時間がなかなか取れない方も多いと思いますが自分や家族の足、爪をみて不安に感じたら、まずは早めに診断を受け治療されることをお勧めします。